

東北化学同窓会の皆様へ

本部幹事 西澤精一

青葉山の木々の若々しい緑が目鮮やかに映り、文字通り風薫る爽やかな季節となりました。同窓会会員の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

まず初めに、同窓会報の発行が大幅に遅れましたこと、心よりお詫び申し上げます。前号（令和3年度同窓会報：令和6年11月発行）でも、同じ旨、述べさせていただきましたが、重ねてお詫び申し上げます。同窓会幹事一同、心機一転して取り組んでおり、今回は、令和4年度・5年度の合併号として同窓会報をお届けいたします。本号には、令和3年10月に着任された坂本良太先生（錯体化学研究室）の「新任教授寄稿」を掲載させていただきました。ぜひ、ご一読ください。また、お気づきのことと思いますが、昨年11月より「東北化学同窓会HP」を整理・プチリニューアルしております。従来の同窓会報に加えて、「受賞・栄誉情報」、「最新の研究成果」など化学専攻HPのコンテンツに直接リンクしており、化学教室の最新の研究活動をご覧いただけます。「受賞・栄誉情報」に示されているように、令和4年度・5年度も日本化学会や文部科学省等の各賞、学生対象の賞など、多くの教員、在校生、同窓生が受賞されており、同窓会としても大変喜ばしく思っております。「最新の研究成果」では、その言葉の通り、各研究室の最新の研究成果がハイライトされています。理学研究科HPのコンテンツ「青葉山の面々」、「理学部広報誌」（理学部マガジンや理学部物語など）には、化学教室の教員・学生が登場しています。写真を交えながら、化学教室の「いま」を伝える大変魅力的な記事となっていますので、ぜひ、ご覧ください。同窓会報と併せて、きっと楽しんでいただけるはずです。

さて、各種報道等でご存知の通り、昨年11月に、東北大学は「国際卓越研究大学」に認定されました。また、青葉山新キャンパスに建設が進められていた次世代放射光施設「ナノテラス」の運用が、昨年4月に始まりました。北キャンパスに隣接する“新キャンパス”は、昔、ゴルフ場のあったところですが、びっくりする程、綺麗に整備され、“大学らしさ”を感じられるスポットに生まれ変わっています。地下鉄東西線を利用すれば、仙台駅からわずか10分（青葉山駅ホームは地下6Fですので、地上に出るまでが大変ですが）、青葉山・化学教室にお越しの際は、ちょっとブラブラしても良いかも知れません。なお、「ナノテラス」は見学可能で（要予約）、青葉山駅から徒歩で15分程度です（連絡バスもあります）。一方、個人的に大変残念に思っていることは、川渡共

同セミナーセンターが廃業されたことです（令和3年11月）。きっと、多くの同窓生の皆様も利用されたことと思いますし、私も、「無機・分析化学コロキウム」の会場として毎年のように利用させていただいていました。大人数・格安料金で利用できる施設は他に無く、かつジンギスカン&温泉が楽しみでした。

ちょっと寂しい話題として、化学教室の運営にご尽力いただいた火原彰秀先生（多元研・ナノ・マイクロ計測化学研究室）が令和5年4月に東京工業大学（現東京科学大学）に、稲葉謙次先生（多元研・生体分子構造研究室）が令和6年4月に九州大学に異動されました。東北大学に身を置く立場とすれば、とっても残念なのですが、両先生は、縁深いホームグラウンドに戻られたと受け止めれば良いのかも知れません。益々のご活躍を祈念申し上げます！

ここで、とても悲しいお知らせをお伝えしなければなりません。本学名誉教授の大野公一先生が令和4年10月に、吉原賢二先生が令和4年11月に、櫻井英樹先生が令和6年7月にご逝去されました。また、長きに亘って化学教室の学生実験教育にご尽力いただいた佐々木伸樹先生が令和6年3月にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

令和4年度・5年度の本部幹事をご紹介します。庶務幹事は石田真太郎（理化・合成構造有機）、会計担当は菅野 学（理化・理論）、広報担当は小室貴士（理化・無機）、そして幹事長が西澤精一（理化・分析）です。また、令和6年度は、会計・豊田良順（理化・錯体）、広報・山下琢磨（高教機構）、石田・西澤は引き続き担当させていただいております。担当事務局は横林洋子さんに引き続きお願いしております。加えて、令和3年度よりは、本学名誉教授の河野裕彦先生、飛田博美先生に化学同窓会の顧問をお願いしております。

現在の同窓会の主な活動内容は、ホームページの運営、会報の発行、オープンキャンパスや卒業祝賀会への助成、学位授与式での記念品贈呈、そして数年に一度の総会の開催などになります。今後とも、会員の皆様からのご理解・ご支援を賜りたくお願い申し上げますとともに、お気づきの点がございましたら、どうか忌憚のないご意見をいただけますと幸いです。最後になりましたが、同窓会会員皆様のご健勝とますますのご多幸をお祈り申し上げます。

令和7年5月